

はばたき

大分大学教育学部
附属小学校便り
平成 28 年 11 月 18 日
(文責: 教頭 時松)

ようこそ先輩！～現役大分大学医学部学生を迎えて～

6月17日、大分大学の北野学長が附属小の視察においでになりました。(はばたき6月20日号にて紹介) その際、北野学長から医学部も附属小学校の教育に協力したいという趣旨のお話をいただきました。お医者さんという仕事のことや広く社会を知る上でも本学の医学部の方との交流は意義深いと感じていましたが、この度、学長の意向を受けた望月副学長から現役の医学部の学生さん、しかも本校の卒業生の方を紹介していただくことができました。

附属小にお招きしたのは、大分市出身の工藤栄華さん。附属小学校・附属中学校を卒業後、大分上野丘高校に入学し興味を持っていた化学部に入部。化学部の日本代表として世界大会(ロサンゼルス)に出場するなど部活動においても大活躍した先輩です。現在は大分大学医学部医学科の学生として学業とともにバドミントン部の活動にも取り組んでいるそうです。

オープンスクールの日、6年生とその保護者の方々が体育館に集まり工藤さんのお話を聞きました。後輩である6年生へのメッセージとして、「勉強の仕方」「人間関係のこと」「夢・目標の見つけ方」などを語っていただきました。

「**勉強の仕方**」…学校の授業・宿題をしっかりとすることが大事。中学・高校に進むにつれて忙しくなり時間が限られてくる。眠いなか勉強することもある。眠くなったときの自分なりの対策を持っておくことよ。 (風呂に入る・筋トレをする・20分だけ仮眠をとるなど) しかし、何よりも大事なことは睡眠をきちんととること。1日に6時間は睡眠時間をとり健康を維持することで記憶力も高まる。1日に100個の英単語を覚えることもあったがこれでやり切れたと感じている。携帯・スマホは誘惑のかたまり。意志が弱いとかではなく誰でもゲームをしたくなったりメールが気になったりする。持たないというのが難しければ勉強部屋に持っていかないなどの対処をする必要がある。

「**人間関係のこと**」…友だちから悪口を言われるなど嫌なこともあるだろうけど、実はすごいっちゃいことで、どうってことないと分かってほしい。好き

な人・嫌いな人がいると思うけど、それも含めてみんなで何か一つのことをやることは実は貴重なことで今しかできない。運動会・歌声発表会・卒業発表会などその時にしかできないことに全力で取り組んでほしい。その中で、友だちへの理解や協調性など将来必要とされることが身についていく。人とかかわりは将来必要とされる。目と目を合わせて話す・家族との会話などを大切にしてほしい。人と話すことで自分というものを作っていく、人の気持ちをわかるようになっていくことにつながる。

「**夢・目標の見つけ方**」…勉強だけではダメ。好奇心を持ってやりたいこと・いいなと思うことをやる。目の前にドアがあったら開けてみる感じで。気になったことをどんどんやってみる。全力でやる。一つひとつやっていくことでやりたいことが見つかる。自分の興味のあることややってみたいことに対して行動を起こしてみるという「行動力」と「度胸」が大事で、「これをやるんだ!」という強い意志があれば周りの声も気にならないし流されない。「行動」という小さい努力を積み重ねることが夢に近づく道。自分で見つけた夢であれば後悔はない。

このような話を熱心に聞いた子どもたちからは、「工藤さんのお話を聞いて『今しか出来ないことをしよう』と思いました。」「努力をすることと思う存分遊ぶことの両立をしている工藤さんは新たな目標となりました。」「これから先のことがあまり見えていなかったけれど、お話を聞いてこれからの人生が楽しみにになりました。」「塾に行ったら頭がよくなると思っていましたが、これからは自主的に勉強をしていきたいと思います。」「これからの中・高・大についての考えが変わりました。『自分の夢は自分で決める!!』ということがわかりました。」「睡眠の大切さや携帯・スマホについての話はとても勉強になりました。」などの感想が出されていました。

笑顔で見守ってくれていた高齢者の方がだんだんと病気になって笑顔がなくなっていく様子を見て、病気を治し笑顔を取り戻せる仕事に就きたいと今の道を選んだ工藤さん。工藤さんからは、小学生時代のことや成長していく上で大事だと感じていることなどをご自身の体験を踏まえた等身大のお話を、心を込めて話していただきました。附属小の後輩のためになるのなら…と初めての講演を引き受けてくださった工藤栄華さんに心から感謝いたします。

附属小学校の子どもたちには、工藤さんのお話から得たものを糧にして、夢に向かって小さくても着実な一歩を歩み続けてほしいと願っています。